

平成 21 年度推薦入試小論文（文学科 英語英文学専攻）解答例

問 1. (20 点)

【採点のポイント】

- ・ 表現効果として、「遠回しに表現できる」「周囲から際立たせる」「言葉遊びが楽しめる」などをあげていること。
- ・ 氾濫する理由として、「語句の最初の文字をローマ字で書くこと」「略語の氾濫」「携帯電話のメールやインターネットにおける料金の節約、仲間意識、話し言葉化した書き言葉」「言語生活が及ぼす影響」との関連性などをあげていること。

【解答例】

「KY 式日本語」の表現効果には、直接言いにくい内容を遠回しに表現でき、ローマ字を挿入することで文章にメリハリがでることなどがある。読む相手も暗号文のようで楽しい文章に見えるかもしれない。元来、日本語には略語が多数存在するが、「KY 式日本語」の氾濫には、字数制限のある携帯電話のメール機能を多用する現代の若者の生活スタイルにも深く関係があるだろう。(173 字)

問 2. (55 点)

【採点のポイント】

- ・ KY 語の使用の是非に対する自分の考えを明確にしていること。
- ・ 文章が論理的に構成されていること。
- ・ 高校 3 年生程度の語彙力、及び日本語表現能力があること。

【解答例】

「KY 式日本語」は、最近、マスコミ等で取り上げられ注目されているが、携帯メールを頻繁に利用する若者の間では既に広く普及している。ローマ字の挿入は言語表現のアクセントの機能を果たし、暗号感覚は仲間意識を高める効果を生む。確かに、言葉は常に変化するので、「KY 式日本語」も新しいタイプの略語として、一つの変化の流れと言えるかもしれない。しかし、意味を知らない人にとって仲間外れのような疎外感を与えるので、無神経な使用に対して私は疑問を感じる。

「KY 式日本語」は一部マスコミや若者に限った流行で、年配の世代の人には全く馴染みがないし、例にあるように、「KY 式日本語」は相手をけなし傷つけるようなネガティブな意味を持つものが多い。面と向かって言えない内容を相手が理解できない略語で表現するのは公平な態度とは言えない。後で相手が本当の意味を知ればやはり傷つくからだ。

「KY 式日本語」は、表現の幅を広げる可能性を持っているのかもしれないが、使う相手とその内容に対する配慮を欠いた使用には、私は賛成できない。(447 字)